

2019年5月3日～6日 岳沢定着（明神岳、奥穂南稜）

メンバー；L谷内、倉澤、若菜、結城

10 連休後半の好天周期に恵まれたこと、4月の冷え込みのおかげで例年並み以上の積雪量であったこと、メンバーの力量が少しづつアップしてきてること等より充実した春山山行を楽しんでくることができました。

5/3 晴れ

AM5時茅野発-6:20 沢渡駐車。10連休で混雑具合が心配であったがすんなりと停めることができ、3人組と一緒にマイクロに乗車し6:50上高地入山～7:05発。4/25に発生した巨大雪崩のデブリを避けるように竹さおルートがつけられており10時岳沢小屋着。テンバ設営後明日からの偵察を行うが、すべての沢筋にたくさんのデブリの堆積が見られ早立ち、早期帰還の重要性を再確認す。

5/4 奥明神沢～明神主峰ピストン

天候；快晴

AM2:30起床-3:55ヘッドラをつけながら本日のトップで奥明神沢に取り付く。前日までのトレースのおかげで締まった急斜面も順調に登行でき6:10奥明神沢コル着。ここから1ピッチはもろい岩壁登りとなり落石を落とさないように慎重に登るがいやらしい所である。懸垂支点が2か所構築されているのを確認しながら登り切った後はおだやかな稜上散歩をしばらく楽しむ。大きな岩の積み重なった岩塔を岳沢側からからむように登りきり7:05明神主峰着。眼下に東稜のトレースが眺められるが人気は乏しい。誰もいない静かな山頂であったが早朝から飛んでたへりがジャンダルム辺りでピックアップしてるのが遠望される。身を引き締めて往路の下降に移るがマーキング等一切ないルートでガスってたりするとルーファイがいやらしい所である。そして最後の岩壁帯は悩まずに懸垂を選択。50mロープ2本担ぎ上げたおかげで40m1回の懸垂でコルに降り立つことができた。10時テンバ帰着。明日の南稜の取り付きを偵察しルート確認後ゆっくりと午後を楽しむ。周りの情報から本日数パーティー南稜にはいっていたようである。

5/5 奥穂南稜～吊尾根～前穂～ダイレクトルンゼ、奥明神沢下降

天候：晴れ

AM2:30起床-3:45発-明るんできた4:30登攀開始。大滝手前のルンゼ状にルートを求める。緩めの雪壁の後、2段の草付き滝場を1ピッチ確保下に登り、その後の雪壁を1ピッチ右上し尾根末端のハイマツ帯に逃げ込む。その後は灌

木、ハイマツ～雪稜のミックス帯を二人づつコンテで行動し快調に登行。トリコニーの牙状岩塔は10年前に登った時の記憶に残っており、左手に回り込み側面の弱点をついてトラバースした後、高度感のあるやせたリッジ上へ。いまにも剥がれ落ちそうな雪庇に気をつけながら雪稜帯へ。まだ締まってくれておりルンルン気分です？ 広大な雪壁を登り切り 9:45 南稜の頭。本日第1回目の握手を交し大休止。10:10 第2の核心部たる吊尾根へ。小さなアップダウン、雪壁の下降、ルーファイがあなどれない。そして最後の不安定なガラ場を登りきり 12:45 前穂山頂。第2回目の握手を交し中休止。視界不良時の下降ポイントが要注意であったが好天のおかげでトレース跡しっかり確認でき13時ダイレクトルンゼに向け下降し 14:30 テンバ帰着。第3回目の握手で無事完登、帰還を祝い、いろんな水分がしみわたる至福の一時をすごす。テントも少なくなっており本日の下山組が多かったようで南稜も我々の貸し切りで最高の日であった。

5/6 夜半に少し雨がぱらついたが朝は晴れており河童橋からのトリコニーの眺めがまぶしく皆満足感にひたった。

AM5:07 下山-6:55 上高地。待ち時間なく即タクシーに乗車でき昼前には茅野に戻り汗をながして解散となった。